



一般質問 きむら せいこ 議員

子どもセンターの開設の目処は

町長 新庁舎に引越し後、保健福祉会館の後利用として検討したい

問

町長が就任して半年近く経つが、現在の執行状況とあわせ、公約の実効に向けて進捗状況を含め、取り組みを伺う。

1. 子育て支援・子育て施策、くっちゃん子条例制定に向けた取り組み

①子ども条例制定の意義は。

町長

子ども達を親だけではなく地域で育て、子どもと共に大人・地域が一緒になって成長し続ける地域社会を築き、「来たくなる、住みたくなる、働きたくなる、ここがふるさとと誇れる町へ」次の時代にバトンタッチしていきたい。

その実現のために皆さんと共に町のリーダーの一人としてもしっかりと全力を注いでいく姿勢の現れ。4年間のうちには制定を実現したい。

問

②子どもセンター開設の目処は。

町長

令和3年5月以降、福祉医療課が新庁舎へ引越し完了後に、保健福祉会館の後利用として、

絵本館機能を備えたものを検討したい。

問

③土曜保育・保育士の処遇の改善等、放課後児童クラブの拡充政策など、今後の見通しは。

町長

保育士の人材確保に向け早急に、町が主体で認定こども園と協議の場を設け、土曜保育の実施など保育環境の整備を主導していきたい。

また、南児童館を放課後児童クラブとして、体制整備を急いでいる。応急的措置として3年生の受入れができていない俱小、西小を対象に夏期休暇までに、現在の体制で受入れる対策を講じる。



問

④地域特性を活かした英語連携事業やスポーツ振興策とはどういうものか。

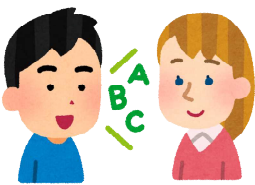
町長

スポーツ施設の環境整備に引き続き取り組み、スポーツに親しめる環境づくり、スポーツ少年団や体育協会に引き続き助成を行い、教育委員会と連携を図り取り組む。

また、スポーツコミッションなどスポーツを切り口としたまちづくりの可能性を研究し、総合教育会議等、教育委員会と協議、検討し進めたい。

教育長

現在、2500万円をかけて英語専門科を全ての小学校に取り入れている自治体は全国にほとんどないのではないかと。後志では本町だけで大変進んでおり、英語力は必ず高まると確信している。中学校、高校にどのようなつながりか今後の課題。



問

2. 聴く・伝える・対話する政治に向けた取り組み

①庁議規則の見直し意義。

町長

公共意思決定過程を町民・議員・職員にわかりやすく示し、町政運営に対する理解を深め、まちづくりに対する思いを一つに進める仕組みを整える。

問

②町民に対する政治姿勢。

町長

大きな財政支出が続く中、限りある人とお金、計画性とタイミングを読み違えず、真心・命を大切に、暮らしを守る使い道を最優先したい。その姿勢を最後まで貫く。

